

おおやまもんぜんまちのちりてきけんきゅう

#20 大山門前町の地理的研究

作者：有賀密夫（ありが・みつお 1912-1994）

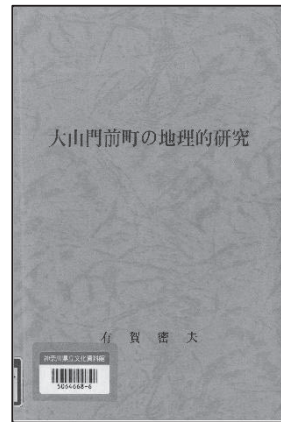
刊行：平成元年（1989）



解題

■ 内容

『大山門前町の地理的研究』は、作者が1966年から1968年頃にかけて調査した相州大山門前町についての資料とその成果を、地理的観点からまとめたものである。相州大山の山麓に形成された門前町は、御師集団が中心となり運営されてきた信仰集落であり、同時に宿坊の役割も兼ねていた。準聖域圏として存在してきた門前町に対し、その外縁部は一種の俗域で、檀家による信仰圏となっている。この信仰圏は御師集団の活動により形成され、山内と門前町の盛衰を左右していたのであるが、神仏分離後は、この門前町（準聖域圏）と檀家（信仰圏）の関係はしだいに変化していった。



[K17.64 /32]

本書は「序言」、「信仰核の形成」、「門前町の形成と展開」、「御師と檀家圏の特色」、「結言」の全5章からなり、大山門前町における信仰核の形成過程と御師および檀家圏の特色について円環構造的視点から地理的に究明することを研究課題としている。第2章から第4章にかけて、それぞれ信仰核、門前町、御師と檀家についての調査をまとめ、第5章で考察した事項を要約している。図表が多数収録されており、年代ごとの御師の推定分布図や、御師ごとの檀家数の一覧表を見ることができる。

当館以外には、国立国会図書館、藤沢市図書館、平塚市図書館、伊勢原市立図書館等で所蔵が確認できる。

■ 作者

1912年生まれ。茨城県多賀郡関本村出身。立正大学専門部歴史地理科卒。もと神奈川県立希望ヶ丘高校校長、藤沢市文化財保護委員。著作に「大山門前町の研究：門前町の形成と御師の活動と檀家圏」、「富士山を中心とする山麓信仰集落」などがある。

 参考文献

- 『我が国民間信仰史の研究』堀一郎著 創元社 1953 [387/306]
鈴木道郎「明治初期における相模大山御師の経済生活」（『地理学評論』39巻10号 日本地理学会 1966）[Z290.5/1]
『大山信仰登山集落形成の基盤』浅香幸雄著 東京教育大学 1967 [K17.64/21]
『門前町』藤本利治著 古今書院 1970 [290.17/5]
『立山と白山：その歴史・伝説・文学』広瀬誠著 北国出版社 1971 [291.42/9]
『神体山』景山春樹著 学生社 1971 [170.2/19]
『大山門前町の研究：門前町の形成と御師の活動と檀家圏』（『地域研究』14号 抜刷）有賀密夫著 立正地理学会 1971 [K17.64/20]
『富士山を中心とする山麓信仰集落』（『地域研究』15巻2号 抜粋）有賀密夫著 立正地理学会 1974 [K17.99/2] [290.17/14]